

平成27年度第2回瀬戸市総合教育会議 議事録

▽日 時

平成28年3月25日（金） 午前10時から11時まで

▽場 所

瀬戸市役所4階 庁議室

▽出席者（順不同、敬称略）

【瀬戸市総合教育会議構成員】

瀬戸市長伊藤保徳、教育委員会委員長加藤高明、
教育委員会委員長職務代理者梶田俊裕、教育委員会委員松本恵美子、
教育委員会委員加藤智子、教育委員会委員佐野嘉崇、教育委員会委員林みゆき、
教育長深見和博

【事務局等】

副市長青山一郎、
行政経営部長加藤仁章、経営課課長補佐兼法務係長白木秀典、
経営課経営調整係長杉江圭司、
教育部長加藤 泰、学校教育課長加藤都志雄、学校教育課主幹早川 寿、
学校教育課課長補佐熊谷由美、学校教育課専門員兼企画係長谷口 壘、
秘書室主幹林 敏彦

▽議題

- (1) 瀬戸市教育大綱（案）について
- (2) 意見交換

▽議事内容

議事に先立ち、伊藤保徳市長から開会のあいさつがなされた。

(1) 瀬戸市教育大綱（案）について

市長による会議進行のもと、教育大綱（案）の案について市長より提案され、
瀬戸市教育大綱を原案のとおり決定した。

意見については、以下のとおり。

委 員： 教育委員を代表して、瀬戸市アクションプラン推進会議の委員と
してアクションプランの策定にかかわってきました。

この大綱案につきましては、教育アクションプランの基本的方向性、
視点など整合性がとれたものとなっており、生涯学習についてもしっ
かり表現され、市長の教育への思いがしっかり出ていると思いますの
で、この内容でよいと思います。

委員： 大綱については、大まかな方向性を示すということなので、よろしいと思います。

これを他人事ではなく、一人一人が自分事として受け止めていけるようになるとよいと考えます。

来年度に策定される第6次瀬戸市総合計画により、組織などが変わることもあろうかと思われませんが、現時点ではこの内容でよいと考えます。

(2) 意見交換について

市長進行のもと、資料2を参考に意見交換を行った。

意見交換の内容は以下のとおり。

委員： 第1回目の総合教育会議で、様々な教育課題について、学校訪問などで現場を見てきた中で保護者や地域の声なども、情報共有させていただきました。来年度当初予算に、次の時代を担う子どもたちのために、かなり大胆に予算に組み入れていただき大変感謝しております。

教育アクションプランの初年度と考えると、このアクションプランを具体的に推進する予算となったと感じ、感謝します。

外国人児童生徒の教育、日本語教育の必要な児童生徒が「日本語初期指導教室」を通し、「瀬戸で学んで良かった」と思えるよう、学力の定着と、進路選択や就労までを見据えて、関係部署と連携して切れ目のない支援をしながら、将来的には定住外国人が市民として自立した生活が送れるようになることが重要であると考えております。外国人児童生徒の教育が良い形になっていくことに期待しています。

委員： 教育の出発点は家庭教育です。ご家庭では、様々な情報収集や活用を図りながらご努力をされていますが、今は、核家族・ひとり親家庭や、共働き家庭なども増えており、子育ての不安を抱える親御さんも増えてきています。

そのような中で、モアスクールを通して地域の方々が参加して子どもたちの育成に携わることができる空間ができることは素晴らしいことと思います。

学校は子どもたちにとって一番身近な場所です。モアスクールなどの放課後の支援について、福祉部局とより連携を深めて、子どもが社会を生き抜く力を持つことができるよう、みんなで応援したいと思っています。

委員： スクールソーシャルワーカーの配置について

教育サポートセンターができ、スクールソーシャルワーカーが配置

されることになりました。非常にありがたく思っております。

問題を抱えた児童生徒に対し、児童生徒が置かれた環境へ働き掛け、関係機関等に効果的につないでいただけたらと思っております。多様な支援方法を用いて、このような児童生徒が問題解決の方向に導かれ、解決でき、そして問題を抱えた児童生徒が少なくなるよう期待しております。

子どもたちの明るい笑顔が増えるようになっていくとよいと思っております。

市長： 新聞に、全国的にスクールソーシャルワーカーを置こうという記事がありました。全国ベースでは公立の中学校においては、まだ一割しか配備されていないとあり、各校1名くらいは必要とありました。本市は、まずは1名を配置することとしました。人材にもよるところが大きいので、誰でも良いという訳にはいかないが、初年度の状況をよく見ながら進めていきたいと考えています。

委員： スクールソーシャルワーカー1名分の予算をつけていただいたことは非常に大きなことと考えます。平成28年度については、1名の予算で3名の方に、日にちを割り当てて各学校に入らせていただくこととしています。

スクールソーシャルワーカーは、教育現場の教員の個別の対応の支えとして、また、保護者と子ども自身の課題解決にあたることとしての役目を負います。

今、このスクールソーシャルワーカーになる人材が不足している状況であり、早く瀬戸市に配置していかないと人材の取り合いともなります。瀬戸市では、平成28年度は県立大学と連携して、人材を確保し活動を始めていきます。

委員： スクールソーシャルワーカーが、良い形で配置されることになり、感謝します。教育サポートセンターの中身の充実をしなければならないのと同時に、こうした機関が動きだすことを市民にもアピールしていかなければいけないと思います。

委員： 学校施設整備について

今回、学校施設の屋根の雨漏りなどの改修予算を付けていただき大変感謝しております。学校施設、社会教育施設、社会体育施設は避難所となる場所ですので、今後も適正配置の部分もあるとは思いますが、それを待つのではなく、老朽化が進む小中学校の学校施設の長寿命化を市民のために計画的に進めて欲しいと思います。

市長： 市内の学校を含め公共施設をどのように延命していくか、計画的に取り組む必要もあるが、現在雨が漏っているところは早く修理していくこととして予算計上し、議会でお認めいただいた。

委員： 非常勤講師・学校サポーターについて

本山中学校の非常勤講師を認めていただいたことで、免許教科外の教員がなくなり、確かな基礎学力の定着を保障できることに、ひとまず安心しています。

しかし、市内に300人程度在籍している発達障害等の子どもたちが落ち着いて生活することや、他の多くの児童生徒の学習を保障するためにも、「学校サポーター」や「特別支援教育支援員」のさらなる増員や、取り出し指導が行えるための「市費での非常勤講師」の増員は、今後ますます必要だと思っております。是非今後も拡充をお願いしたいと思っております。

委員： 家族の人数が少なくなっている中で、学校を中心として地域の皆さんが連携し、力を合わせて行事などを「作る段階」から市民の皆さんに参画していただきながら、住民一人一人の活躍の場を作り出し、まちに活力を生み出すことを願っています。

地域にあるいろいろな祭や行事を始め、瀬戸の文化や歴史など、地域資源をうまく活用して郷土愛を育てていくことが本当に大切だと感じています。地域がつくられることは、子どもたちの豊かな成長にもつながり、人づくりと地域づくりの好循環を生み出すことにもつながっていくと思います。

今の子どもたちは、「動く」環境や機会が少ない状況であり、健康になっていくことも大切と考えます。健康寿命を延ばすことも大切でありますので、市民の皆さんといろいろな機会を作りながら、瀬戸市を生き生きとした活力あるまちにしていきたいと思っております。

市長： 平成28年度は、教育だけでなく子どもに関わる予算をいくつも措置をしたものになっています。

教育アクションプランでは、学校教育と生涯教育を一体として、基本的に地域で支えていこうとしています。今後も、この総合教育会議の場では、人づくりや人材育成の根幹にかかわる、積極的な話し合いができることを期待しています。

委員： 教育委員会と行政の合意形成が図れたと感じます。

教育アクションプランの当事者は全市民であります。教育は子どもだけのものではないことをこの場で、改めてみなさんと確認しておきたいと思っております。

長年の懸案、喫緊の課題である適正配置適正規模についての私のとらえ方を話し、また、皆さんの意見が、瀬戸市の大きな施策として推進していく原動力になればよいと思っております。

適正配置の問題については、長年の懸案でありました。どこかで大きな決断をしなければならず、今がその時であります。既に教育委員

会からも「対応すべし」と意見が出されており、また、PTAからも具体的な施策を行ってほしいと意見が出ています。具体的には中心部の少子化に対して手を打つことと意見があり、今回は市長みずから小中一貫校を作って、魅力ある教育環境づくりとしての新しい学校、瀬戸市が誇れるだけでなく、これからの教育の目指す方向性、プランを示す絶好の機会を得たと考えます。

子どもたちを育てるということは、30年後には子育て世代になります。子どもと共に親も育ち、子どもたちと一緒に過ごす高齢者には、生きがいづくりにもつながります。

新しい学校づくりは、現在ある学校を地域の拠点として、皆さんの学びの拠点、生きがいの拠点、市民が活動する拠点、防災の拠点など多種多様な目的が果たせる、夢の実現が可能になる場となると思います。新しい教育の創造、市民の自治力の向上となることを目指していきたいと思います。

様々な地域も課題が多くありますが、まずは突破口として、中心部における小中一貫校を進め、教育の充実を図って行きたいと考えます。

市長： 瀬戸市の教育における喫緊の課題として、適正配置適正規模として新聞にも取り上げられました。これから議論が必要ではありますが、たたき台としてプランを示しながら、理解を深め、みんなが理想とする教育の場、教育の環境を作っていけると良いと考えます。子どもたちの学力の定着を保障しつつ、なおかつ、のびのびとそれぞれの可能性を試すことができ、また、伸ばすことができる教育を考えていきたいと思います。

今後は、夢のある未来志向で、教育環境、教育施設、教育方法を総合教育会議で議論していきたいと思っています。

委員： 新しい形の小中一貫校設置を中心市街地で行うという話をうかがい、教育委員会としても懸案事項が動き出したと感じます。

市全体の公共施設の課題もありますが、良い形で教育の可能性を追求していく夢ある話と感じ、我々もバックアップしていきたいと思えます。ただし、設置にかかわって、通学などの様々な問題にもしっかりとした対応をお願いしたいと思います。

市長： 教育アクションプランにあるように地域が学校を育ててほしいと思います。地域が学校にもっとかかわっていくという記載がある、一方で、瀬戸らしさを生かした特色ある教育の推進と言う基本施策が定められています。

瀬戸市のキャリア教育は、全国でも高い評価を受けており、多くの団体がこのキャリア教育にかかわっています。このことは大きな特色であります。適正配置適正規模に取り組む中でもこうした「瀬戸らし

さ」を出し、「瀬戸で教育を受けさせたい」となっていくと良いと思います。

委員： キャリア教育など全国的に高い水準であることは、地域としてまともな良いものと考えます。関係者が連携して実践され、それが、キミチャレ（子どもたちが、自らチャレンジテーマを設定し、その実現に向けた過程で、「生き抜く力」を育むことを目的とした事業）のような形になっていくことは良いことと思います。

委員： 平成28年度の予算では、地域コーディネーターを配置できます。キャリア教育でもコーディネーターと言う認定資格を持った方がいて、各学校の職場体験などをコーディネートしています。他市等では中学校ブロックくらいでキャリア教育を推進していますが、瀬戸市では全市を対象として受け入れの入口を作り、全部の学校で取り組むこととしています。

地区ごとに素晴らしい人材がいるので、地域の人材を発掘し、人づくりの意味でも、地域コーディネーターが地域を見て、つなぎ、その発展として地区に新たな地域コーディネーターが生まれていくことを期待しています。

地区の特色を出して「瀬戸らしさ」、「瀬戸の魅力」としていきたいと考えます。

委員： コーディネーターと教育サポートセンターとの関係はどのようなものか。

委員： 教育サポートセンターの役割の一つに地域コーディネーターの事業があります。

市長： 年間を通じて本会議は2回ほど開催したいと考えています。それ以外に懇談会などで情報共有、意見交換していきたいと考えています。

委員： 「チーム学校」として取り組み、それがさらに「チーム瀬戸」と言う大きな広がりになっていくと良いと思います。瀬戸は非常にやりやすい規模だと思います。ぜひモデルケースになって全国的にもアピールできるようになると良いと思います。そのバックアップをしていきたい。

地域の仕事を手伝える機会があるが、祭りなど人が集まるのかと心配をすることがありますが、多くの人が集まります。これは、潜在的に祭りを好きな人、欲している人が多いのではないかとも思います。せともの祭など対外的なものではなく、地域の祭や行事など大事にしていきたいので、地域の祭など手伝えることがあればしていきたいと思います。

市長： 適正配置など日本全国から注目されるものにしていきたいと思います。そのために本会議では、大きな方向性や重要なポイントなどを決

めていくこととなります。

決して行政が先走ることなく地域の方のご意見や保護者の方のご意見、将来の通う人たちの保護者の意見も取り入れながら進めていくことが重要だと思います。

お祭りの件については、もう一度「祭り」というもので横のつながり、新しいつながりのきっかけづくり、祭りの持つ効用を考えなければいけないと思います。お祭りはイベントと言う短絡的なものとしてではなく、その背景にある神事から流れるもの、風俗や世間における文化が脈々として流れているものであります。

また、一方ではコミュニケーションを目的としたお祭りもあります。一つの事例として、「水野祭り」は、毎年5月の3日に行われている。これは、昭和26年5月3日に水野村が瀬戸市に併合されたからであり、こうした背景を大切にしていることから、地域のまとまりも良いのだと私は思います。地域で永々と継承されているこうした、地域愛や郷土愛を育むものについても議論していくと良いかと考えます。

委員： 瀬戸市民も知らない祭りが多いと思います。地域のお祭りを皆さんが参加できるようになると、素晴らしいまちになると思います。もっと大事にしていかなければいけないと思います。

市長： 大綱の決定と年度予算についてのご意見や適正配置に対する思いを述べていただき意見交換をさせていただきました。

その他全般について、ご発言はありますでしょうか。

本日は、熱心なご議論をいただきありがとうございました。

これをもちまして第2回総合教育会議を閉会させていただきます。

▽その他

事務局から次回開催に際して、別途日程調整する旨の説明がなされた。